



2021年7月1日

各位

興和株式会社

新型コロナウイルス感染症患者を対象とした イベルメクチンの臨床試験【開発コード：K-237】を開始

興和株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長 三輪 芳弘、以下「興和」）は新型コロナウイルス感染症患者を対象に、イベルメクチン[※]を投与する臨床試験（開発コード：K-237）を開始いたしますのでお知らせいたします。

イベルメクチンの新型コロナウイルス感染症に対する臨床試験は世界各国で実施されていますが、残念ながら日本において企業が主体となった臨床試験は行われていません。ノーベル生理学医学賞を受賞した北里大学 大村智記念研究所・大村智特別栄誉教授より直接、興和での本臨床試験実施に関するご依頼を受け、弊社といたしましては大変光栄なことで、国民の皆様のため本臨床試験を実施していかなければならないと決断するに至りました。興和が本臨床試験を開始する主な目的は以下のとおりです。


- イベルメクチンは寄生虫感染症治療薬として臨床の現場で約30年使用されており、長期間に亘り安全性が確認されている薬剤です。
- 規制当局の承認を得た臨床試験により、有効性ならびに安全性が確認された薬剤を、いち早く国民の皆様に提供することで、新型コロナウイルス感染症治療に少しでも貢献し、国民の健康を守っていくことが製薬会社の使命と考えております。
- さらに、治療薬が誕生することにより国民の皆様が健康になり、停滞していた経済活動が再開されることで、日本経済の活性化が図られるものと考えております。

興和は、北里大学・大村智特別栄誉教授、花木秀明教授、愛知医科大学・三嶋廣繁教授ならびに東京都医師会（会長：尾崎治夫医師）の協力の下、イベルメクチンの新型コロナウイルスに対する臨床効果を早急に確認し、早期に治療薬の実用化を目指してまいります。

以上

※イベルメクチン

2015年にノーベル生理学医学賞を受賞した大村智北里大学特別栄誉教授らが発見したマクロライド系抗生物質です。1993年にフランスで糞線虫治療薬として初めて承認され、本邦に於いても2002年に販売が開始されています。また、オンコセルカ症（河川盲目症）やリンパ系フィラリア症など寄生虫感染症薬として南アフリカを中心に2019年は約4億人が投与を受けています。

 興和株式会社	広報部（東京）	東京都中央区日本橋本町3-4-14 TEL：03-3279-7392
	本店（名古屋）	名古屋市中区錦3-6-29